

【前期研修】(1-2年目)

	整形外科チーム	脳神経外科チーム	循環器・脳神経内科チーム	血液内科・腎臓内科チーム	ECU
社会的共通課題	<ul style="list-style-type: none"> □自身の体調管理に気を配ることができる □有給休暇等チーム内で調整をしながら取得できる □職場の時間の流れや機器操作に慣れる不慣れな点は指導者またはスタッフに適宜質問、確認ができる □各ローテーション終了時に15-16単位を目標に実施できる □指導者を中心としたチーム・職種スタッフとコミュニケーションを取りながら治療を進めている □多職種間カンファレンス参加し担当またはシェアケースの情報を理解、共有し専門職の立場から発言できる □作業療法、言語聴覚療法の現場に触れる機会をもちりハ職種の特性を理解する業務に関わる備品配置や当番内容を理解できる 				
事務的共通課題	<ul style="list-style-type: none"> □実施予定登録、実施登録、カルテ入力が助言のもとで一通り作成できる(開始・終了時サマリー含む) □書類の作成を経験する(総合実施計画書、カンファレンス資料、施設連絡表) □指導者立ち合いのもと総合実施計画書の説明を患者、または患者家族へ説明できる 				
臨床共通課題	<ul style="list-style-type: none"> □感染予防、スタンダードプリコーションが行える □バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧・SpO2)が測定できる □意識レベルの評価、症状、病態の観察ができる □各種モニターの使用(心電図、パルスオキシメーター等)方法と標準的理解が得られる □褥瘡予防、転倒予防、酸素吸入患者の管理ができる □初期の段階では治療補助や担当ケースのシェアを通じて治療へ参加していく □疾患に沿った評価を選択し、適時再評価・フィードバックにより訓練内容の再考(クリニカルリズニング)ができる □短期ゴールを設定し関連職種と共有できる □長期ゴールを設定し資源利用等を理解する □運動プログラムを立案し適宜修正できる □協会・学会の生涯学習プログラムの履修を進める □対象者の異常を察知し、関連職種に報告できる □産後呼吸器学会等の英語集いに積極的に参加する □専門課題に対し自ら調べ理解できる 				
評価・訓練(共通課題)	<ul style="list-style-type: none"> □問診、視診、触診、形態測定等の基本手法が行える □疼痛評価と対処方法(RICE処置等)を選択できる □浮腫み、皮膚の状態を理解できる □褥瘡や表皮剥離等の皮膚トラブルを理解できる □各種感覚検査(表在・深部) □関節可動域検査 □筋力検査(MMT、HHD) □筋緊張検査 □協調運動機能検査 □姿勢観察 □バランス検査(BBS、片脚立位) □パフォーマンス検査(TUG、10m歩行、SPPB等) □日常生活活動検査 □歩行能力を把握し適切な補助ツールを選択できる □松葉杖指導 □免荷時の荷重の確認・退院先環境の把握、情報収集、退院先環境に応じた訓練を実施できる 				
	<ul style="list-style-type: none"> □安全な基本動作練習ができる □安全な屋内歩行練習ができる □安全な階段昇降練習ができる □運動時の輸液導入の管理ができる(必要時、看護師へのライン管理協力依頼ができる) □ライン類の取り回しに十分留意した介入ができる □離床が困難な患者に対しベッド上で廃用予防運動を行える □認知機能低下患者に対し安全を確保したプログラムを選択できる □がんりハガイドラインに沿った疾患を理解し運動を選択できる □認知機能低下や高次脳機能障害患者に対し安全を確保したプログラムを選択できる □人工呼吸器患者を経験する □酸素投与の理解と酸素ボンベの取り扱いができる 				
評価・訓練(専門課題)	<ul style="list-style-type: none"> □主要整形外科疾患の病態が理解できる □病態把握 □各種骨折、変性疾患、背髄疾患の病態の理解と治療法の概要が理解できる □手術の理解 □手術におけるリスクの理解 □脱臼や脱臼、ROM制限、手術における侵襲 □ギプス・シーネにおける注意点が説明できる □炎症期の管理を他職種と連携して行える □骨癒合の生理的機序を説明できる □術後、離床の必要性を理解出来る □鎮痛剤、意識レベルの一般名と生理的機序の概要を理解する □既往や併存疾患の理解 □離床に伴う身体への影響を想定できる □各種整形外科的テスト □背髄損傷評価(ASIA)が出来る □共通課題等にある評価を理解し運動を実施したうえで問題点に応じた訓練内容を提示出来る □患者に適した訓練内容を実施できる □治療機種の理解 □人工呼吸器のモードを理解する □酸素ボンベ、ドレーン、フォーレ、DIV等の必要性を理解する □物理療法を必要に応じて行える <ul style="list-style-type: none"> ・ホットパック療法 ・低周波 ・消炎浴療法 ・超音波療法 ・CFM ・(VAC療法) □下肢装具 □義足、長・短下肢装具等患者に適した装具を選択できる □適切な杖の処方ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、慢性硬膜下、血腫、脳腫瘍等の病態が理解できる □治療方法(薬剤治療 手術)が理解できる □脳画像と予後予測 □運動機能が検査できる(片麻痺運動機能、失調、検査 徒手筋力検査) □中枢神経障害の姿勢/動作/歩行分析ができる □麻痺側の促進運動ができる □中枢神経障害に対する基本動作練習ができる <ul style="list-style-type: none"> 〃 バランス練習ができる 〃 移乗動作が安全に行える 〃 歩行練習が安全に行える 〃 階段昇降が安全に行える 〃 ポジショニングが適切に行える □脳卒中ガイドラインに沿った疾患を理解し運動を選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> □主要循環器疾患の病態を理解できる □主要脳神経内科疾患の病態を理解できる □呼吸・循環動態、代償について理解できる □心不全の病態の理解ができる □心機能について最低限の病態説明が行える □ATIについて理解できる □心肺運動負荷試験について情報収集が行える □12誘導心電図とモニター心電図の違いが理解できる □心疾患患者の適切な運動負荷量を設定できる □脳卒中患者の評価が行える □脳卒中ガイドラインに沿った疾患を理解し運動を選択できる □神経難病患者の病態や予後等を理解できる □適切な運動負荷でレジスタンストレーニングを行う事ができる □病態やリスク、ライン状況に合わせた起居動作練習を実施できる □離床が困難な患者に対し安全に離床を促す事ができる □治療時期に応じた運動負荷量を調整できる □使用されているカテコラミンの種類や量が確認できる □カテコラミン投与時の運動負荷調整ができる □利尿薬の量と種類、飲水管理と尿量管理の意味が理解できる □各種ドレーンカテーテル留置中の運動を経験する □多量のライン環境で歩行時の取り回しが安全に行える 	<ul style="list-style-type: none"> □主要血液内科疾患の病態を自ら調べ理解できる □多用される抗がん剤の一般名が分かる □麻薬の投与状況と一般名が分かる □薬物の副作用について自ら調べ理解できる □骨髄抑制の症状と病態について自ら調べ理解できる □主要腎疾患の病態を自ら調べ理解できる □腎不全の病態について理解できる □シャント肢の状態を把握できる □循環動態に応じた適切な運動負荷で筋力トレーニングを行なうことが出来る □病態やリスクに合わせた起居動作練習を指導できる □離床が困難な患者に対しベッド上で廃用予防の運動を行なえる □透析室でのリハ介入を経験する □CKDのガイドラインを調べ病態を理解し指導を受けながら運動を選択できる □拘束性換気障害と閉塞性換気障害を説明でき、代表的な疾患がわかる □代表的な呼吸器疾患の薬物を自ら調べられる □低酸素血症の状態を理解できる □酸素投与の理解と酸素ボンベの交換操作ができる □各種ドレーンカテーテル留置中の運動を経験する □胸腔内留置カテーテルのメカニズムと血液性状を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> □救命救急センター内の感染管理を理解できる □鎮静管理について評価(RASS)できる □下記の呼吸機能評価をおおまかに理解できる <ul style="list-style-type: none"> ・酸素化 ・換気 ・酸素解離曲線 □人工呼吸管理の目的とデメリットが理解できる □聴診方法が実践でき、呼吸音の判別と理解ができる □体位ドレナージと用手的排痰手法の方法と理論が理解できる □集中治療室内モニターの使用方法が理解できる □各種ルーートの判別と理解ができ理学療法時のリスク管理に役立てることができる □シヤント、シーヌ、バスキヤス、ドレーン □胸部エックス線・CT所見を理解(無気肺・胸水の鑑別、シルエットサインと肺区域の鑑別等)できる □介入当日の血液学的所見や血液ガスについて理解できる □各種吸引方法について容量(Y計算)の計算をしたうえで、理学療法の内容を大まかに吟味できる □各種吸引方法について標準的理解ができる <ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖式吸引 ・開放式吸引 □人工呼吸管理の特徴を理解できる <ul style="list-style-type: none"> ・モード、換気量、圧(Pi、PS)、吸気時間、呼吸数、各種モードの作動方法 □ICUカンファレンス内容について標準的理解ができる □理想状態管理が改善でき、人工呼吸管理に役立てることができる □人工呼吸器管理患者の離床時のリスク管理が理解できる(総管・ルート類、カフ圧、結露、喀痰、バイタルサイン、チューブ保護、人工呼吸器からの情報)
学術・研究活動(年間を通じて)	<ul style="list-style-type: none"> □積極的に研修会や勉強会に参加できる □日本理学療法士協会の新人教育システムを受講し自己研鑽を進める □学会等に参加し幅広く見識を深める 				

【後期研修】(3-5年目)						
	整形外科チーム	脳神経外科チーム	循環器・脳神経内科チーム	血液内科・腎臓内科チーム	外科・消化器内科チーム	ECU
社会的共通課題	<input type="checkbox"/> 自己および周囲のスタッフの体調管理にきを配ることができる <input type="checkbox"/> 有給休暇等チーム内で調整を図ることができる <input type="checkbox"/> 16単位/日を実施できる <input type="checkbox"/> 単独で多職種間カンファレンス参加し担当ケースの情報を専門職の立場から発言し意見交換できる <input type="checkbox"/> チーム病棟スタッフと密接にコミュニケーションを取りながら治療をすすめている					
事務的共通課題	<input type="checkbox"/> 実施予定登録、実施登録、カルテ入力の後輩に指導できる <input type="checkbox"/> 総合実施計画書、カンファレンス資料、施設間連絡票などの書類を正確に作成できる <input type="checkbox"/> 単独で総合実施計画書の説明を患者、または患者家族へ説明できる <input type="checkbox"/> 退院後リハ継続となった患者の手続きおよび説明ができる <input type="checkbox"/> 総合実施計画書を作成し7日以内に説明できる					
臨床共通課題	<input type="checkbox"/> 各種モニターを使用しリスク管理に生かせる <input type="checkbox"/> 褥瘡予防、転倒予防、酸素吸入患者の管理ができる <input type="checkbox"/> 疾患に沿った評価を選択し、適時再評価・フィードバックにより訓練内容の臨床推論(クリニカルリズニング)ができる <input type="checkbox"/> 短期ゴールを設定し関連職種と共有できる <input type="checkbox"/> 長期ゴールを設定し資源利用等を本人または他職種に提案できる <input type="checkbox"/> 対象者の異常を察知し迅速に対処できる <input type="checkbox"/> 医師の治療方針を理解しリハ専門職(PT)として患者に関わることができる <input type="checkbox"/> 協会・士会の生涯学習プログラムの履修を進め登録理学療法士の取得を目指す					
評価・訓練(共通課題)	<input type="checkbox"/> ローテーション期に実施した評価項目等を確実に遂行し、効率的かつ正確に問題点を抽出できる <input type="checkbox"/> 治療方針に即した効果的な運動療法を実践できる <input type="checkbox"/> チーム内で治療方法、目的を議論できる					
評価・訓練(専門課題)	<input type="checkbox"/> 主要整形外科疾患の病態を把握し説明できる <input type="checkbox"/> 手術における侵襲や脱臼部位・負荷等を考慮したリハプログラムを立案・実施できる <input type="checkbox"/> 各種整形外科的テストや脊髄損傷評価(ASTIA)等で病態を把握し、それに応じたプログラムを立案・実施できる <input type="checkbox"/> 多種既往を有した患者に対しても配慮したプログラムを立案・実施できる <input type="checkbox"/> 物理療法を必要に応じて行える <input type="checkbox"/> 義足、下肢装具等の役割を把握し説明できる。患者に適した装具を選択できる <input type="checkbox"/> 適切な杖の処方や歩容を指導できる <input type="checkbox"/> 免荷等に応じ、患者・病棟スタッフが実施しやすく、安全な移乗方法を実施・病棟スタッフへ指導・周知できる <input type="checkbox"/> 痛み等の患者の訴えに配慮し、プログラム内容を修正できる <input type="checkbox"/> 泌尿器科疾患領域の疾患・病態を把握し、プログラムを立案・実施できる <input type="checkbox"/> ストーマに対する理解・配慮のうえ、プログラムを立案・実施できる	<input type="checkbox"/> 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍等の病態が説明できる <input type="checkbox"/> 治療方法(薬剤治療・手術)が説明できる <input type="checkbox"/> 脳画像と予後予測を基にゴール設定ができる <input type="checkbox"/> 運動機能検査、動作分析を基に問題点を説明できる <input type="checkbox"/> 問題点に応じた効果的、実用的な練習ができる(促進、基本動作練習、バランス練習歩行練習、階段昇降、ポジショニング)	<input type="checkbox"/> 主要循環器疾患の病態を説明できる <input type="checkbox"/> 主要脳神経内科疾患の病態を説明できる <input type="checkbox"/> 呼吸・循環動態・代謝について説明できる <input type="checkbox"/> 心不全の病態の説明できる <input type="checkbox"/> 心機能についての病態説明できる <input type="checkbox"/> ATLについて説明できる <input type="checkbox"/> 心肺運動負荷試験について結果を説明できる <input type="checkbox"/> 12誘導心電図とモニター心電図の違いを説明できる <input type="checkbox"/> 心疾患患者を適切な運動負荷量でex.が実施できる <input type="checkbox"/> 脳卒中ガイドラインに沿った運動療法を実施できる <input type="checkbox"/> 適切な運動負荷でレジスタントトレーニングを行う事ができる <input type="checkbox"/> 病態やリスク、ライン状況に合わせた起居動作練習を実施し家族や他職種に指導できる <input type="checkbox"/> 利尿薬の量と種類、飲水管理と尿量管理の意味を患者に指導できる <input type="checkbox"/> 各種ドレーンカテーテル留置中の運動療法を安全に実施できる <input type="checkbox"/> 多種のライン環境で運動療法を安全に実施できる	<input type="checkbox"/> 主要血液内科疾患の病態概要を説明できる <input type="checkbox"/> 多用される抗がん剤、麻酔薬の一般名が分かる <input type="checkbox"/> 薬物の副作用について概要を理解できる <input type="checkbox"/> 骨髄抑制の症状と病態について説明できる <input type="checkbox"/> 筋力、筋持久力維持、バランス、ADL練習等適宜状態に合わせてプログラムを実践できる <input type="checkbox"/> 主要腎疾患の病態概要を説明できる <input type="checkbox"/> 腎不全の病態について症例を挙げ説明できる <input type="checkbox"/> 循環動態に応じた適切な運動負荷が筋力トレーニングを行なうことが出来る <input type="checkbox"/> 病態やリスクに合わせた起居動作練習を指導できる <input type="checkbox"/> 透析室で他職種連携を図りながら介入ができる <input type="checkbox"/> CKDのガイドラインに沿った病気を理解し運動を選択できる <input type="checkbox"/> 主要呼吸器疾患の病態概要が理解できる <input type="checkbox"/> 多用される呼吸器系薬剤の一般名が分かる <input type="checkbox"/> 拘束性換気障害と閉塞性換気障害の特性に応じたプログラムを実践できる <input type="checkbox"/> 低酸素血症の状態を説明できる <input type="checkbox"/> 酸素投与の意味を理解し酸素ボンベ交換等適切に対応できる <input type="checkbox"/> CO2ナルコースの病態を説明できる <input type="checkbox"/> 胸腔内留置カテーテルのメカニズムと血液性状を説明できる	<input type="checkbox"/> 外科手術対象の病態を理解できる <input type="checkbox"/> 各種手術方法・内容・略語を理解できる <input type="checkbox"/> 術後リスクや合併症を把握できる <input type="checkbox"/> 手術部位の術後管理方法・内容・リスクを把握できる <input type="checkbox"/> 肩関節の生体反応の特徴の把握と、全身状態の評価ができる <input type="checkbox"/> 消化器内科患者の病態を理解できる <input type="checkbox"/> 消化器内科の検査(内視鏡・血管造影(アンギオ)等)・治療(食道静脈瘤等)を理解し、リスク・合併症を把握できる <input type="checkbox"/> 外科・消化器内科患者への理学療法介入の必要性を説明できる <input type="checkbox"/> 外科・消化器内科領域の病態を把握、周術期および検査前後の理学療法を実践できる	<input type="checkbox"/> 胸部画像所見の理解や聴診方法の実践を通して、体位ドレナージと用手的排痰手技を用いて排痰を実践することができる <input type="checkbox"/> 各種吸引方法を実践できる <input type="checkbox"/> 閉鎖式吸引・開放式吸引 <input type="checkbox"/> 各種人工呼吸器の特徴について標準的理解ができる <input type="checkbox"/> 人工呼吸管理患者の離床時の下記管理について理解と実践ができる <input type="checkbox"/> 各種ルート類・人工呼吸器蛇管・カフ圧・回路内の結露・各種吸引・バイタルサイン・人工呼吸器の設定や換気量・同調性について・挿管・気切チューブ・他者とリスクの共有 <input type="checkbox"/> 患者-人工呼吸の同調性について考えられる <input type="checkbox"/> 肺メカニクス(Pplat,Cst,Raw)の理解と測定ができる <input type="checkbox"/> 肺メカニクスの変化と各種パラメータの変化を理解できる原因を推察できる <input type="checkbox"/> Auto-PEEPについて理解できる <input type="checkbox"/> 腹臥位療法への適応・リスクを理解できる(褥瘡好発部位、MDRPU) <input type="checkbox"/> 人工呼吸離脱・抜管の評価(RSBI,PEFR,MIP,VC)ができる <input type="checkbox"/> コロナ患者対応時の防護服着用・感染管理が実践できる <input type="checkbox"/> コロナ患者への理学療法の内容について理解と実践ができ、患者に説明ができる <input type="checkbox"/> 必要に応じて看護師と共にリハ内容を共有でき、看護師視点からのリスク情報があれば理解できる <input type="checkbox"/> がリハ診療からリハ適応を考慮し、医師に提案できる
学術・研究活動(年間を通じて)	<input type="checkbox"/> 積極的に研修会や勉強会に参加できる <input type="checkbox"/> 日本理学療法士協会の新人教育システムを受講し自己研鑽を進める <input type="checkbox"/> 学会等に参加し幅広く見識を深める <input type="checkbox"/> 難治事例について職場発表を実施し諸課題を共有できる					